

## 愛する子を手放す父

6

(金)

どうか、全能の神がその人の前で、お前たちを憐れみ、もう一人の兄弟とベニヤミンとを返してくださるるように。子どもを失わなければならぬのなら、失うまでだ。(14)

3/

再びエジプトに買い出しに行くにあたり、兄たちは末弟ベニヤミンを連れて行く必要があることを父ヤコブに伝えます。ヤコブはそれだけはならぬと拒んできましたが、ついに息子たちの説得に折れ、ベニヤミンを連れて行くことを許可します。全能の神にすべてを委ねつつ、今日の聖句にあるようにヤコブは覚悟を決めたのでした。ここには愛する息子を手放す父の悲壮感があふれています。このヤコブの姿を見ると、御子キリストを手放された父なる神の苦しみはいかばかりだったことかと思えます。十一人の子どもの一人を手放すことがこれほどの苦しみだとするなら、独り子を失った父なる神の悲しみはどれほど大きかったことでしょうか。しかも神は説得されたからではなく、ご自分から御子を遣わされたのです。この父なる神の大きな愛によって、私たちは救われたのです。